

かしいびよう かしい かた

「香椎廟・香椎の潟」

(題詞) 「冬十一月、大宰の官人等、香椎廟を拜み奉り訖へて退り帰る時に、

馬を香椎の浦に駐めて、各懐を述べて作れる歌」



香椎宮本殿 (旧香椎廟)

建築様式『香椎造』

そちおおとものまへつきみ
「帥大伴 郷の歌一首」

1) いざ子ども 香椎の潟に 白たへの袖さへ濡れて 朝菜摘みて

む

巻六―九五七 作者 大伴旅人

(解説) さあ皆、ここ香椎の潟で 白衣の袖の濡れるのも忘れて、朝食のお菜に

する海藻をとろうよ。

*「いざ子ども」は年下、または目下の親しい人々に対し呼びかけする言葉。

だいにをののおゆあそみ
「大弐小野老朝臣の歌一首」

2) 時つ風 吹くべくなりぬ 香椎潟 潮干の浦に 玉藻刈りて

な

巻六―九五八 作者 小野 老

かしいがた しほひ たまもか

(解説) 時つ風が吹くころになりました。香椎潟の潮干の潟で玉藻を刈り
ましよ。

* 「時つ風」は満潮・干潮など潮時に応じて吹く風。

* 「潮干」は潮の引去ること。

ぶぜんのかみ
「豊前守 宇努首男人の歌一首」

ゆ かへ

3) 行き帰り 常に我が見し 香椎潟 明日ゆ後には

あす のち

見むよしも憚し

卷六一九五九 作者 宇努首男人

(解説) 行き帰りにいつも私の見た香椎潟も、明日からは見られなくなる。

○題詞によると通説年である 神亀(じんき) 五年(728) 冬十一月(陰曆)、大
宰帥(だざいのそち) 大伴旅人おおともたびとら大宰府の官人たちは、馬を馳はせて香椎
にある香椎廟に参拝した。参拝を終えてのち、一行は帰途、香椎の浦に馬を駐(とど)
め、各人が自分の思いを述べた歌を詠んだ。万葉集には、この時の歌が三首載せられ
ている。

○冬十一月大宰帥・大伴旅人以下の役人たちが香椎廟に参詣したのは『筑前国ちくぜんのくに
風土記』には「筑紫の国に赴任すれば、まずかしひぐら賀襲宮(香椎宮)に詣るを例とす。」ま
た、『香椎宮編年記』等の香椎宮の歴史記録には「西海を巡視し、九州の諸府を領す
るものは先ず香椎廟を詣りおわりてその地に就くべし。」とあり、さらに「仲哀天皇
を祭る古い祭り「現・古宮祭」は昔は大宰帥以下国司が参詣して祭文を奏し、・・・」

とある。古宮祭は春二月六日(仲哀天皇崩御の日)と冬十一月六日とであった。神
亀五年に大宰官人等が奉拝した時は、ご造営成つて四年目の見事なご社殿であり冬十
2

一月は、十一月六日の仲哀天皇の御祭（現・古宮祭）への参詣に相違ないと思われる。」と記されている。なお、「古宮祭」明治以降は一カ月後れの三月六日と十二月六日と なっている。

○この万葉集にみえる「大宰府の大伴旅人以下の役人たちが 参拝した「香椎廟」とは現在の『香椎宮』のことをいい。また、日本書紀に仲哀天皇（14代）が仲哀九年（200）に崩御された地とする『檀日宮』かしひのみやは香椎宮が伝承地である。（角川・日本史辞典より）」と記されている。

『香椎宮』は福岡市の東部に位置する福岡市東区香椎に鎮座し、旧官幣大社、祭神は仲哀天皇・神功皇后である。

○香椎宮へは西鉄貝塚線「香椎宮前駅」下車。平行するJR鹿児島本線線路沿いに東約100m行き右側の踏切を渡るとすぐ香椎宮の大鳥居がある。ここからの香椎宮の参道は見事な楠並木が続く。そこから広大な境内に入ると正面に檜皮葺の楼門がある



香椎宮・楼門

①香椎宮の由緒によると「楼門は重層な雄大な建造物で総ケヤキ造りで左右に筋塀がある。天正十四年（1568）戦火により焼失したが明治三十六年（1903）再建された。」と記されている。

②この楼門を入るとすぐ前に神功皇后伝説の「綾杉」の老木が見事な枝ぶりを見せてくれる。



香椎宮・神木「綾杉」

『綾杉』は香椎宮畧縁起などによると仲哀天皇皇后「神功皇后」が海外よりご帰朝の際に香椎廟を建立し、よろい鎧の袖に挟んであった杉の枝を土にさして「永遠に本朝をみくに鎮護しんごべし」と綾杉の御手植えと共に、そのまま香椎廟のご創建となって、今日に及ぶものであると記されている。

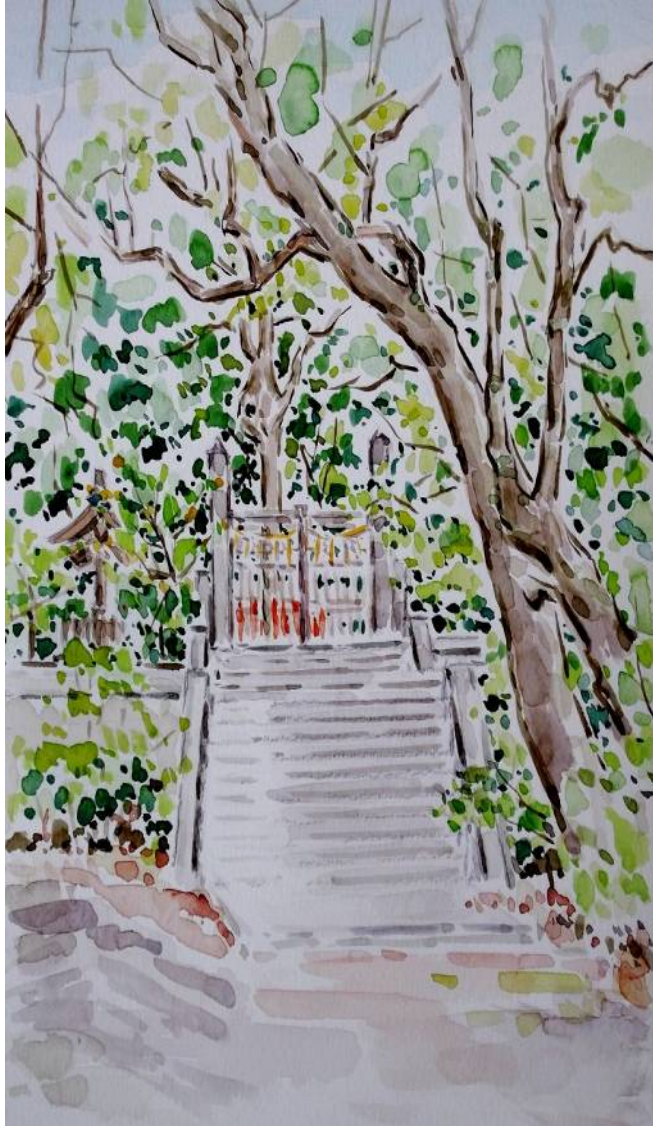
③「綾杉」前の石段を上ると「香椎宮本殿」がある。

『香椎宮本殿』は香椎宮御由緒などによると「神龜元年（724）に創建され、壮大な香椎廟の形式そのままに今に伝えている。」さらに「享和元年（1801）筑前藩主黒田長順ながよりが再建せしものが今の本殿である。」と記されている。

○本殿の建築様式は香椎宮の旧国宝建造物指定説明書には「その平面は奇なると共に、屋根の形もまた、すこぶる奇にして変化に富み『香椎造』と称する日本唯一の神社建築の様式で重要文化財とある。

④ 『古宮跡』

香椎宮本殿わきから裏手に出て少し歩くと、低い丘の上に玉垣に囲まれた小殿（古宮跡）が見えてくる。そこが仲哀天皇の『檀日宮跡伝承地』である。この地で仲哀天皇が崩御されたと伝えられている。



檀日宮跡伝承地（古宮跡）

『香椎瀉』

○万葉集には香椎廟（現香椎宮）参拝を終えてのち大宰帥大伴旅人らの大宰府官人たち一行は帰途、「香椎の浦」に馬を駐め各人が自分の思いを述べ歌を詠んだ。とある

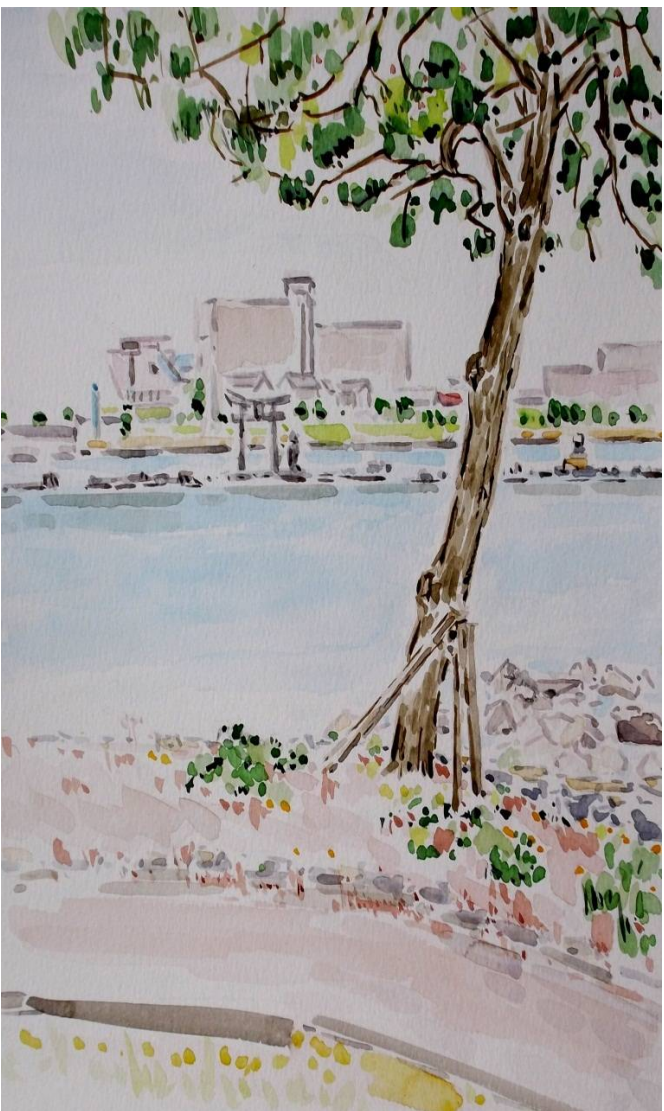
「香椎の浦」は香椎宮境内をぬけて、楠の並木の表参道を500メートル余りひきかえすと、香椎宮の大きな石鳥居がある。鳥居の左側から香椎宮頓宮へ至る石段をのぼりつめた丘上に頓宮がある。明治時代の地図から見るとこの丘のふもとまで波が打ち寄せていたことがわかる。当時この辺りの磯浜を香椎瀉・香椎浦・香椎浜と呼ばれこの丘上からは、磯浜を見渡すことができたことが推定されることから、香椎の廟に参拝した大宰府帥大伴旅人の一行は、この辺りにあった香椎の浦に馬を駐めて歌を詠ん

だのではないかと思われる。

しかし今はこの丘上からは博多湾東部の入江である香椎潟は埋め立てによる開発によりビル等が立ち並び見ることができない。今は香椎宮から西へ2キロ余りいくと博多湾を見渡す海岸にでる。この海岸を香椎潟といった昔の「櫃日の浦である。」

この香椎潟の海中から顔をのぞかせるいくつかの岩島が「御島」みしまである。この御島に香椎宮末社「御島神社」みしまがある。かつては海岸より500メートルほど沖に浮かぶ背の高い岩島であったと伝えられている。御島はやがて波により崩れ岩が取り払われ、今は満潮時には祠と鳥居のみが海中から覗かせるだけとなっている。香椎潟の埋め立ては御島を取り囲むようにして行われ一角に人口島などがつくられるなどで現在はかろうじて小さな海域が残っているのみであり、また海岸は海によごれによりクラゲなどが打ち上げられているなど万葉集で歌われた風情の面影はない。この香椎潟にある「御島」には神功皇后がここで御髪をすすがれたという伝説がある。

(写生地) 香椎浜公園の西「香椎潟」の岩場の上に立つ御島神社の鳥居と背景に人工島・アイランドシティを描く。(池田杏花)



香椎潟 (博多湾)

